



津波災害に備えるために

作成：滑川市防災危機管理課
(TEL 076-475-0573)

地震や津波はいつ発生するか、わかりません。
自分の命を守るために、日頃から備えておくことが大切です。

災害リスクの把握（自助）

- 自宅や学校、勤務先など普段生活している場所が「津波浸水想定区域に該当するかどうか」をまずは津波ハザードマップで確認しましょう。
- 避難行動の注意点や情報収集の方法を防災パンフレットで確認しましょう。



避難場所や避難行動の検討（自助）

- 地震による津波災害を想定し、あらかじめ「どこへ」「どのように」避難するのかを、家族や近隣の方と話し合っておきましょう。
 - 自動車での避難は様々なリスクを伴うため、やむを得ない場合を除き、徒歩で避難しましょう。
平時から、浸水の恐れのない安全な場所を一時避難場所と想定し、徒歩避難してみましょう。
※一時避難場所は、災害から命を守るために一時的に避難するための場所です。
 - 地震が発生し津波災害が想定される場合は、ただちに次のいずれかの避難行動を取りましょう。
 - ・津波が到達するまでに、津波浸水想定区域外へ避難できる → 水平避難を選択
 - ・倒壊、流出の恐れがある場所（老朽家屋や平屋など）にいる → 近隣の高い建物へ垂直避難を選択
 - ・倒壊、流出の恐れがない建物の2階以上にいる → 在宅避難を選択
 - ・避難している間に津波に巻き込まれる可能性がある → 自宅の2階など在宅避難を選択
- ※想定外の津波による浸水に備え、可能なかぎり「津波浸水想定区域外」に避難しましょう。
※詳しくは、裏面の避難行動の流れをご確認ください。

地域における協力体制づくり（共助・近助）

- 平時から地域の防災訓練や行事に参加して、地域や近隣の方とコミュニケーションをとり、いざという時に相互に協力し合える体制をつくっておきましょう。

【参考】津波の高さ（浸水深）と被害の目安 『浸水深』：実際に上陸する津波の高さ

イメージ	浸水深の目安	被害の目安	注意報・警報の種類
	5.0m (2階軒下まで)	木造家屋のほとんど (2.0～2.5mで約70%) が流出・全壊	大津波警報 (3.0m～)
	3.0m		津波警報 (1.0～3.0m)
	2.0m (1階軒下まで)	木造家屋のほぼ半数 (～2.0mで約40%) が流出・全壊	
	1.0m	津波に巻き込まれると命を落とす (0.3m～) 避難できなくなる	津波注意報 (0.2～1.0m)
	0.5m		

【 地震(津波発生時)避難行動の流れ 】

作成：滑川市防災危機管理課

